



玉川学園における SGHとIBコースの連携

平成30年度第1回スーパーグローバルハイスクール連絡会 報告

平成26年度指定校 玉川学園高等部・中学部

IB担当 前田則文・SGH担当 碓合宗隆

どうして玉川学園はIBプログラムを始めたのか？

- 国際バカロレア機構の理念
- 玉川学園の理念
- →双方の教育理念の親和性

国際バカロレア機構の理念

- 理解と尊敬を通じてより良い平和な世界の創造を助ける、探究心にあふれかつ博識で、思いやり深い若者を育成すること
- 世界で学ぶ生徒たちが積極性や思いやりの心を育み、自分と違う背景を持つ他者の正しさをも理解することが出来る、生涯にわたる学習者として成長していくこと

玉川学園の理念

- 日本社会のみならず国際社会においても、積極的に貢献できる優れた人材を育成すること
- 進む道に未知なる苦難があろうとも失敗を恐れずに難関に挑戦していく「人生の開拓者」を育てていくこと

- 学園のモットー

「人生の最も苦しい、いやな、辛い、損な場面を真っ先に微笑を以て担当せよ」

IBの学習者像

1. Inquirers 探求する人
2. Knowledgeable 知識のある人
3. Thinkers 考える人
4. Communicators コミュニケーションできる人
5. Principled 正義感のある人
6. Open-minded 心を開く人
7. Caring 思いやりのある人
8. Risk-takers 挑戦する人
9. Balanced バランスの取れた人
10. Reflective 振り返ることができる人

玉川学園の12の教育信条

1. 全人教育
2. 個性尊重
3. 自学自律
4. 能率高き教育
5. 学的根拠に立てる教育
6. 自然の尊重
7. 師弟間の温情
8. 労作教育
9. 反対の合一
10. 第二里行者と人生の開拓者
11. 24時間の教育
12. 国際教育

玉川学園の12の教育信条の一つ「国際教育」

• 12. 国際教育

今、「地球はわれらの故郷なり」という広い視野と気概を持った国際人が求められている。

語学の習得に満足することなく、豊かな国際感覚を養うため、地球のあらゆる場所で行える any place の教育を目指している。

実りある「国際教育」を目指して →SGHへ

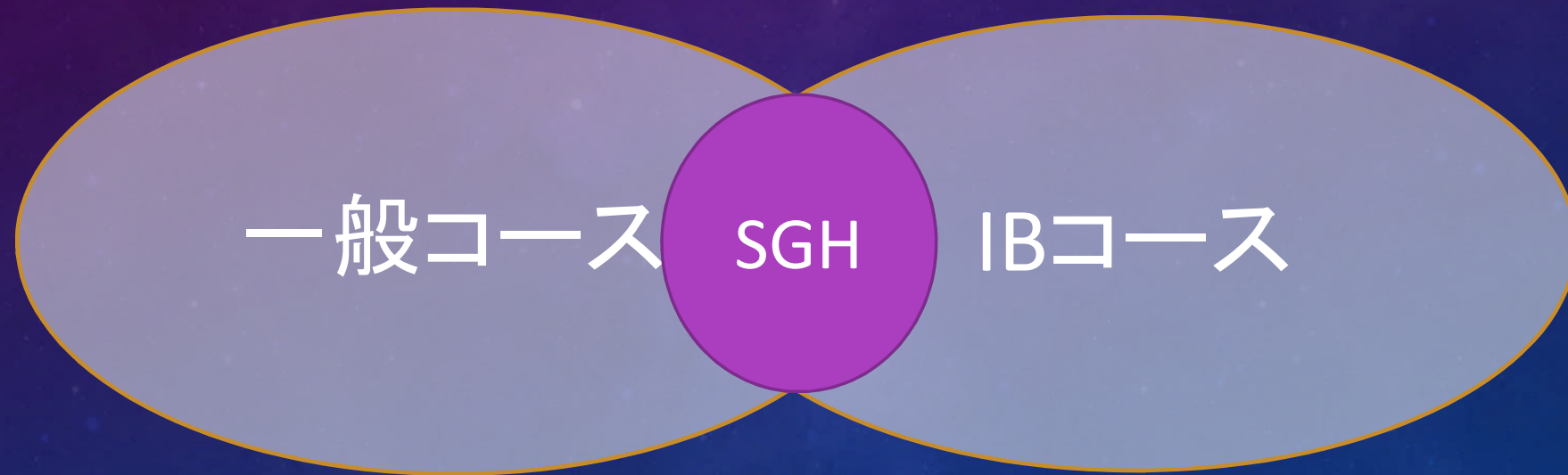
- 一般コースの生徒とIBの生徒がSGHを通して同じ方向を向いて切磋琢磨できないか

→玉川学園SGHの研究開発テーマ

国際機関へキャリア選択する全人的リーダーの育成

玉川学園SGH

～ 一般コースとIBの生徒が「国際教育」の観点で連携



○玉川学園SGH研究開発テーマ設定の背景 国際機関へキャリア選択する全人的リーダーの育成

2013年1月 国連職員数




国連事務局 望ましい職員数

順位	国名	職員数	望ましい職員数
1	アメリカ	274	352 ~ 476
2	イギリス	108	109 ~ 147
3	ドイツ	103	131 ~ 177
4	フランス	102	102 ~ 137
5	イタリア	86	84 ~ 114
6	カナダ	74	56 ~ 76
7	中国	65	82 ~ 111
8	日本	60	202 ~ 273
9	メキシコ	46	44 ~ 60
10	ロシア	45	33 ~ 45

出典NHK解説室

なぜ国際機関への就職が少ないのか

- 身近に国際機関のイメージがない
- 具体的に何をしているのかわからない
- グローバルな問題が身近でない
- 英語力、コミュニケーション力に自信がない



国際(グローバル)イメージ
が必要！

玉川のSGHでは国際機関が扱う5つの研究課題テーマを設定

Student Enrolling Models for 4 (9-12) years in TSGH SGH生徒の履修モデル

Tamagawa Super Global Leaders



グローバルキャリア講座 Global Career Lecture Series

Tamagawa Super Global Leaders 48 System

tap (Gr10)

課題探究ステージ
Stage for exploring issues

基礎養成ステージ
Stage for Nurturing Basic Skills

SGHの重点生徒

- ラウンドスクエア実行委員会の生徒
- 自由研究「グローバル研究」の生徒
- 授業「ワールドスタディーズ」履修者
- 授業「模擬国連」履修者
- IB生徒(9-12年)

合計234名／全校生徒893名(2017年度)

IB生徒が積極的にSGHへ参加できるようにするには

IB生徒はIBの科目および玉川学園の必修科目を履修しなくてはならない
(合計34～38単位)



一般の生徒よりも2～6単位多い(0時限目+8時限目！)



カリキュラムの中にSGHオリジナル科目を追加するのは不可能



既存のIBの諸活動を生かしてSGHの活動へ参加できるように

MYPとDPの必修社会奉仕活動→SGHのポイントへ

Service@Tamagawa、C.A.S、

グローバルキャリア講座への参加、レシテーションコンテスト、スピーチコンテストへの参加、海外研修参加、留学、留学生受入、コンテスト応募、入賞、RS委員会活動など



玉川学園スーパーグローバルリーダーズ48ポイントへ換算



SGHの実践

グローバルキャリア講座 年間約20回

延べ参加数 3460名

TED方式平均参加数140名

立教大学、関西学院大学、東京外語大学
政策研究大学院大学、玉川大学



玉川学園模擬国連(TMUN)



木曜7時限目・30名・学校設定科目



難民問題研修会 & 玉川模擬国連1日会議

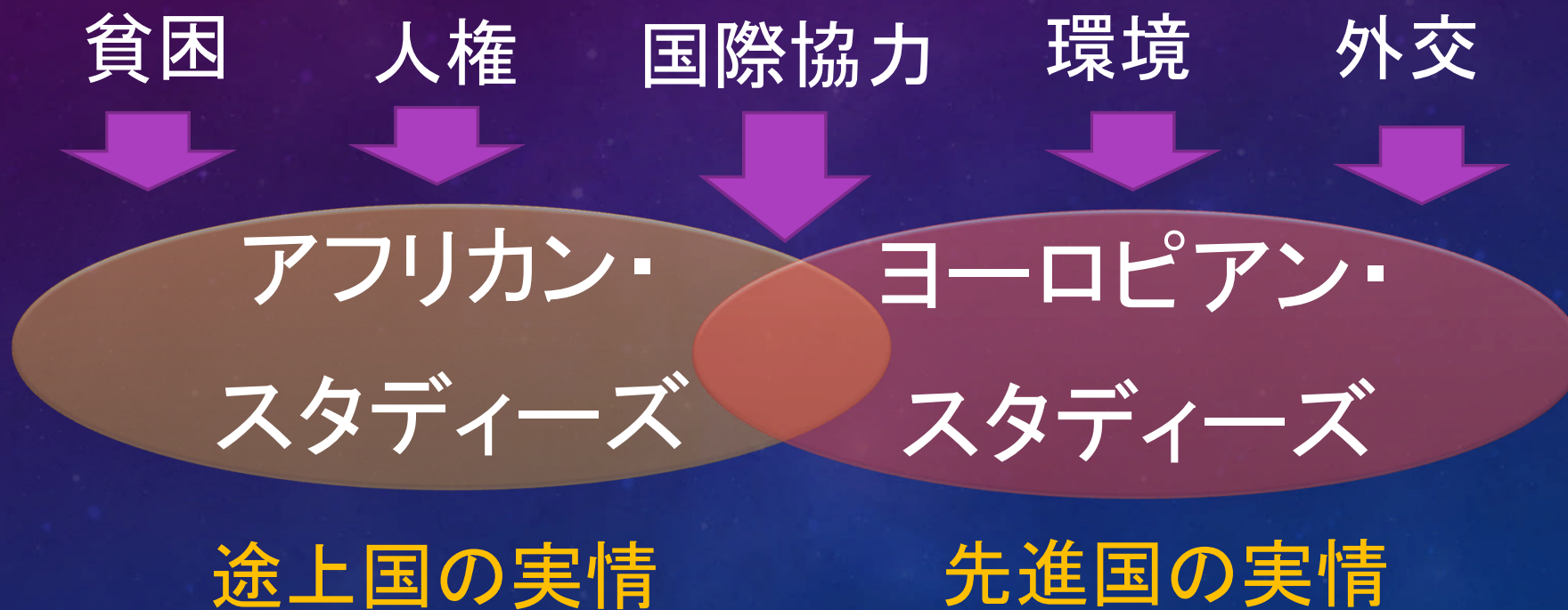
- 1 小尾尚子 UNHCR駐日事務所副代表
- 2 君塚宏 法務省入国管理局審判課長
- 3 滝澤三郎 東洋英和大学大学院教授

渋谷教育学園渋谷・開成高校・頌栄女子学院・山手学院・立命館・松山東高・ぐんまアカデミー・リンデンホールスクール・昭和女子大付属・横浜女学院・立教女学院・広島女学院・公文国際・横浜国際・渋谷教育学園幕張

16校・140名



SGH海外研修と個人研究テーマの関連



SGHの実践～海外研修(7月)

アフリカン・スタディーズ(貧困・人権・国際協力)

ボツワナ共和国→南アフリカ共和国



SGHの実践～海外研修(1月4～15日)

ヨーロッパ・スタディーズ(環境・外交・国際協力)

ドイツ→ポーランド→スイス



主な成果～英語科の取り組み

- ① **GTEC実施** (9～11年全員) および **英検・TOEICの奨励**
- ② 「英語会話」の **コンテンツのグローバル化** (11年生・12年生選択科目)
- ③ **学内レシテーション／スピーチコンテストの実施** (10年・11年全員)



主な成果

DPの取得率が向上

【2012～2013年度】SGH指定前

約68%



【2014～2017年度】SGH指定後

約76%

主な成果

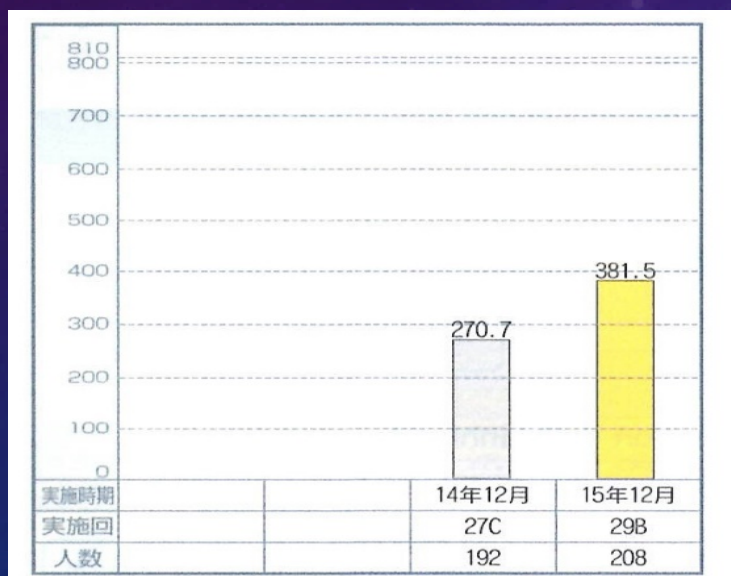
生徒の英語力が向上

CEFRB1～B2生徒の割合

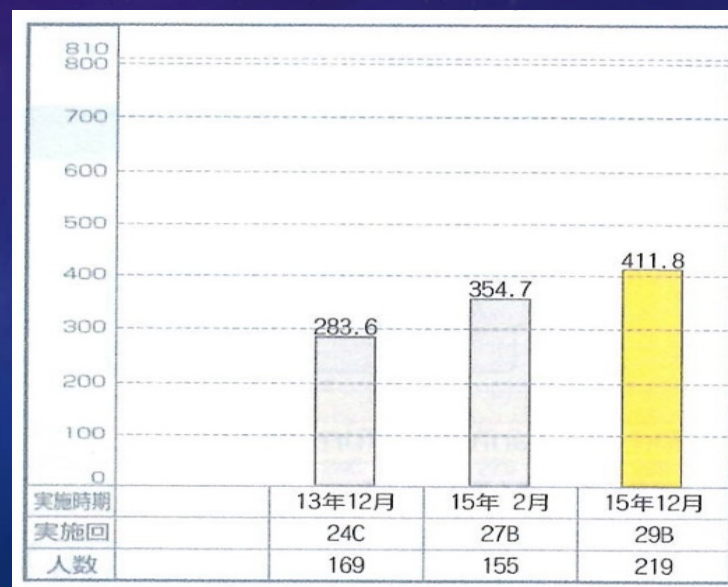


- 対象生徒 **47.8%** (+5.3%)
- その他生徒 8.6% (-1.2%)

【9年生の英語力推移-GTEC】

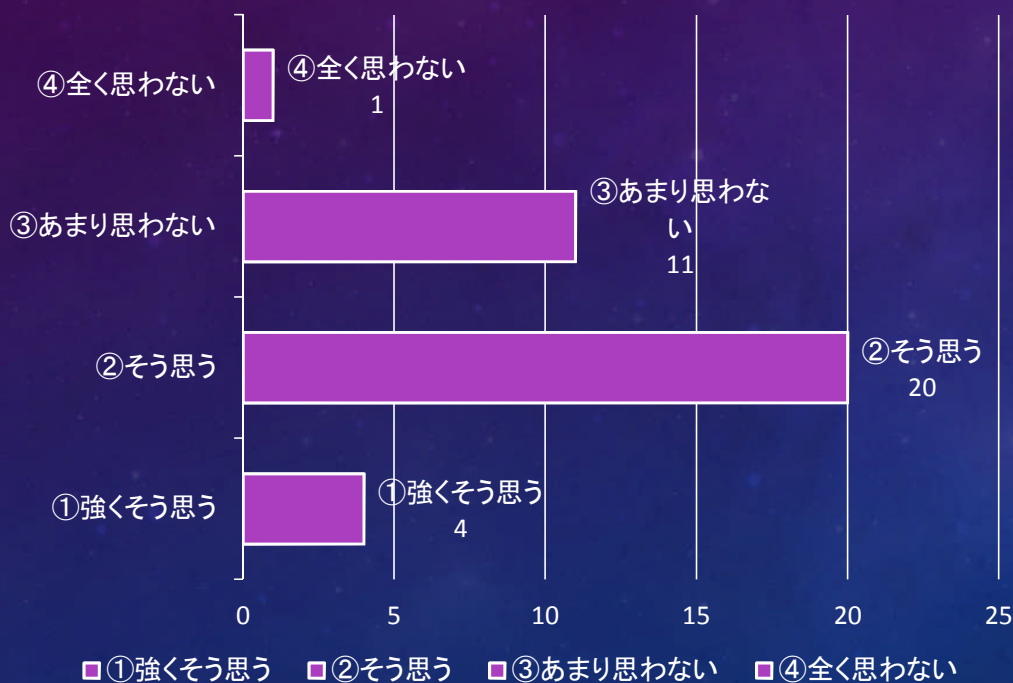


【10年生の英語力推移-GTEC】

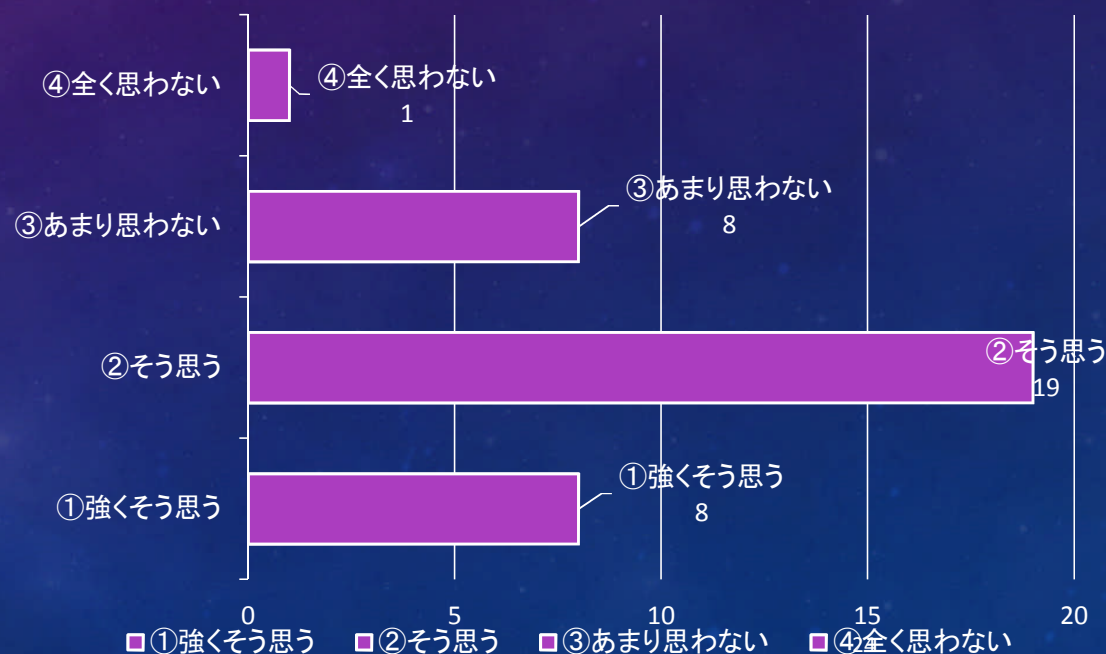


指定後、約70%の先生方は生徒への肯定的影響があったと考えている

⑬SGH指定以降、生徒の英語への学習意欲に変化がみられた



⑭SGH指定以降、生徒の進路選択に変化がみられた



IBの生徒のSGH活動の関わり方の例

- K.M.さん～ 2016年高等部卒のIB生。在学中に南アの学校へ短期交換留学に行き、アフリカ地域の社会課題へ強い興味を持つようになり、**模擬国連**や**ラウンドスクエア**の活動などへ積極的に取り組んだ。高等部卒業後は、単身シエラレオネへ行きボランティアを行った。昨年は大学の制度で**国連ボランティア（UNV）**へ**選出**されて、ジンバブエへ派遣された。

• ご清聴ありがとうございました